

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1231号	氏名	鈴木千鶴子
論文審査担当者		主査教授      門司      和彦  副査教授      青木      克己  副査教授      小路      武彦	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価                  本研究は、ビルハルツ住血吸虫症に対する防圧策として実施されている診断・治療・教育の統合プログラムにおける学校教育部分の役割と効果を精査・評価しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究方法に関する評価                  ビルハルツ住血吸虫症の感染地ジンバブエの郡部にある小学校 8 校において、好発年齢である 5 年生を対象に、予防教育実施前と実施後、ならびに 3 ヶ月後に計 3 回、同一様式の KABP（知識・態度・信条・行動）調査を実施し、その調査結果を基に、予防教育の効果と効果の持続性を解析した。以上の手法は妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価                  上記手法で解析した結果、プログラムの教育の効果ならびにその持続効果を検証し、さらに効果持続の機序として学校における協働学習共鳴効果を明らかにしており、評価できる。また、今後の防圧策として学校健康教育の積極的な活用へと進展することが期待できる。</p> <p style="margin-top: 20px;">以上のように、本論文は住血吸虫症の防圧対策における教育の役割と効果を明らかにするとともに政策提言への進展の可能性も示し、今後の住血吸虫症対策研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			